



富山県立大学ニュース

平成28年7月発行
富山県立大学学生委員会

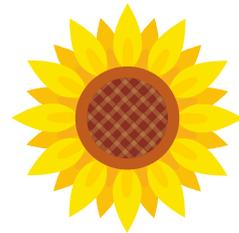
NO.112

学生球技大会 (5月27日)



CONTENTS

- News Digest
- OB・OG紹介
- 研究紹介
- CAMPUS NEWS など



学生球技大会開催

5月27日(金)、グラウンドや体育館などの体育施設において学生会主催による「学生球技大会」が開催されました。今年度は、ソフトボールや3on3などの4種目がトーナメント戦及びリーグ戦で繰り広げられ、参加34チーム、約190名の学生及び教職員が、白熱した試合を通して交流を深め、意気を高めました。

各種目の結果は次のとおりです。

競技種目	優勝チーム	準優勝チーム
ソフトボール	チームケニヤ	小泉ジュ〜〜〜ンズ
3on3	チームDai	hotoke
ビーチボール	ゆーじこーじ	中村祐介
バドミントン	リプトンズ	チーム鳥取



富山県立大学入学者選抜に関する懇談会

5月27日(金)に県内高等学校の進路指導主事及び第3学年主任の教員のみなさんに参加いただき、「富山県立大学入学者選抜に関する懇談会」を開催し、47校55名の参加がありました。

本学の概要や入学者選抜について説明したほか、希望者には本学の講義や研究室を見学していただきました。また、大学院知能デザイン工学専攻1年田中 緑さんによる学生生活の紹介では、研究や課外活動の様子をいきいきと、また、堂々と発表する姿に、感心の声が多く寄せられました。

研究協力会総会

5月24日(火)に、パレプラン高志会館において平成28年度富山県立大学研究協力会総会(会長：(株)スギノマシン 代表取締役社長 杉野太加良)が開催されました。総会では、平成27年度事業報告及び収支決算、平成28年度事業計画及び収支予算等が審議、承認されました。

総会後は、東京大学大学院 新領域創成科学研究科 人間環境学専攻 割澤 伸一教授より『センシングテクノロジー ～加工状態判定からウェアラブルヘルスケアまで～』と題してご講演をいただきました。

交流会には、来賓として石井知事にご出席いただき、本学の研究者紹介を交えながら会員・教員相互の交流を深めることができました。



ひまわり大作戦(種まき)

本学の環境教育および地域貢献事業の一環として、射水市と共同で取り組む「ひまわり大作戦」が、開学記念日の6月1日(水)に本学1年次生全員による一斉種まきでスタートしました。

本プロジェクトでは、学生がひまわり栽培、バイオディーゼル燃料の精製を通じて資源の大切さや環境問題への関心を高めること、また、市民に「ひまわり畑」を一般開放することにより地域社会に貢献することを目指しています。

種まき当日は、学生総勢約260名が約50aの畑一面にひまわりの種を撒き、土に触れる経験があまりない学生も仲間と協力して楽しそうに取り組んでいました。また、防鳥テープを張り、鳥害対策も行いました。

当日は、近隣にある黒河保育園の園児と保護者の方も参加し、学生と協力しながら楽しく種まきを行っていました。

今後は、ひまわり畑に迷路をつくり、8月6日(土)のダ・ヴィンチ祭で一般公開する予定です。

名誉教授称号授与

本学の発展に多大な貢献をされた前本学教授の野村 俊 氏に、開学記念日の6月1日付けで名誉教授の称号が授与されました。

野村氏は、昭和51年、本学の前身である富山県立技術短期大学に機械科助手として着任され、学生部長、主任教授、その他様々な学内委員を歴任し、大学及び学科の運営に多大な貢献をされました。

研究面では、光を用いた超精密計測の研究で優れた成果を発表されたほか、県内で様々な企業と共同研究を行い、地域における技術の普及と産業の発展を支えられました。学会活動での活躍も目覚ましく、長年にわたり学術振興に貢献されました。また、教育面では、優れた教授法で学生を指導し、多くの大学教員や企業人を輩出されました。



オープンキャンパス

6月18日(土)にオープンキャンパスを開催し、県内外から高校生204名、保護者38名、計242名の参加がありました。

本学の概要や教育の特色等の説明、希望する学科の模擬講義、研究室の見学が行われ、本学学生も研究室での説明や参加者の引率など、様々な場面で頼もしい姿を見せてくれました。

参加者からは、「より一層富山県立大学に興味を持った」、「模擬講義や研究室見学を通して大学を身近に感じる事が出来た」といった感想が多く寄せられました。

本学教員等の受賞について

教養教育 古澤 之裕 講師

公益財団法人 日本ビフィズス菌センター (第20回腸内細菌学会)

ビフィズス菌センター研究奨励賞 H28.6.9受賞

受賞研究「腸内細菌によるエピゲノム修飾を介した腸管免疫恒常性維持機構の解明」

<研究の概要等>

生体内で最大の免疫器官である腸管には、宿主にとって有益な常在菌が生息している。腸管免疫系は腸内細菌の体内への侵入を防御する一方、腸内細菌に対する過剰応答とそれに伴う炎症が起こらないよう制御している。この抑制性の応答を調節しているのが、消化管の粘膜固有層に存在する制御性T細胞である。受賞者は、腸内細菌がヒストンやDNAの化学修飾(エピゲノム修飾)を介して腸管の制御性T細胞を誘導することを初めて発見し、共生菌による宿主免疫応答調節の分子機構を明らかにした。



機械システム工学科 畠山 友行 講師

溶接学会マイクロ接合研究委員会

マイクロ接合優秀研究賞 H28.5.20受賞

受賞研究「熱・電気連成解析を用いたパワー Si MOSFET内部の温度分布予測」

<研究の概要等>

本研究は、パワー Si MOSFET内部における電子輸送の詳細やマイクロスケールのホットスポット(局所高温部)の発生を、コンピュータシミュレーションにて解析し、マイクロスケールでの温度管理の重要性を示したものです。研究の重要性と今後の発展性が評価され、受賞させて頂きました。本研究に多大なる貢献をしてくれた、博士後期課程の学生であった木伏理沙子さん(現:山口東京理科大学助教)に、心より感謝申し上げます。



生物工学科 野村 泰治 講師

①公益財団法人 富山県ひとづくり財団

第33回「とやま賞」 H28.5.30受賞

受賞研究「有用植物二次代謝産物の生合成機構の生化学的解明とバイオプロセスによる物質生産への応用」

<研究の概要等>

受賞者はこれまで、植物に含まれる有用物質(二次代謝産物)が植物体内で合成される過程(生合成)に焦点をあてて研究を進めてきました。本受賞は、チューリップの抗菌性二次代謝産物の活性発現に関わる酵素系の解明と、同酵素を利用した難入手微量生物活性物質の生産プロセスの開発、ならびに植物培養細胞を使った効率的物質生産技術の開発等の近年の顕著な成果が高く評価されたことによるものです。

②天野エンザイム株式会社

第17回酵素応用シンポジウム「研究奨励賞」 H28.6.3受賞

受賞研究「加水分解反応を触媒しないカルボキシエステラーゼ「チューリップシド変換酵素」の構造解析と有用物質生産への応用」

<研究の概要等>

チューリップに含まれる「チューリップシド類」とよばれる物質を抗菌活性物質である「チューリップパリン類」へと変換する酵素「チューリップシド変換酵素」が、加水分解酵素ファミリーの酵素でありながら転移反応を触媒する、これまでに知られていなかったユニークな酵素であることを発見するとともに、同酵素を利用した新たな物質生産法の確立に成功しました。本酵素は、産業界での応用可能性の観点から高く注目されています。



山口 拓也 ERATO浅野酵素活性分子プロジェクトグループリーダー 浅野 泰久 生物工学科教授・ERATO浅野酵素活性分子プロジェクト研究総括 生物工学科・生物工学研究センター

公益社団法人 日本農芸化学会

2016年度日本農芸化学会「トピックス賞」 H28.4.6受賞

受賞研究「ヤスデ由来ヒドロキシニトリルリアーゼの探索と大腸菌での発現系の確立

Molecular cloning of hydroxynitrile lyase from millipedes and heterologous expression in Escherichia coli」

<研究の概要等>

ヒドロキシニトリルリアーゼ(HNL)は、ヒドロキシニトリルの生産に利用されている酵素である。我々は、ヤンバルトサカヤスデ由来HNLが、産業利用されている植物由来HNLよりも高性能であることを見出した。本研究では、様々なヤスデからHNL遺伝子をクローニングする方法を開発し、さらにこれまで困難であった大腸菌での発現系の確立にも成功した。今後、ヤスデ由来HNLが植物由来HNLに取って代わり、産業利用されることが期待される。



本学学生等の受賞について

受賞者	学科等	学会賞名	受賞年月	指導教員
小島 大輝	知能デザイン工学専攻 博士前期課程2年	日本音響学会 北陸支部 優秀学生賞	2016年3月	教授 平原 達也

OB・OG 紹介

大阪電気通信大学

医療福祉工学科における活動

大阪電気通信大学
医療福祉工学部 藤川 智彦
医療福祉工学科

〔1999年3月 富山県立大学大学院工学研究科〕
博士後期課程 機械システム工学専攻 修了

私は富山県立大学工学部と大学院工学研究科の9年間の大学生活を経て、富山商船高等専門学校（現 国立富山高等専門学校）の教員として、社会人をスタートさせました。この富山商船高等専門学校では電子制御工学科の教官として、8年の教育経験を積み、現在は大阪電気通信大学 医療福祉工学部 医療福祉工学科の教員として、生体機構制御工学研究室を運営しております。

私は富山県立大学工学部機械システム工学科の一期生として、大学に入学しました。先輩がいないこともあり、1年次から先生と気さくに話ができる環境でした。スキーや飲み会にも誘って頂いたことを昨日のこのように覚えています。4年次では横井信安先生（H12退職）と春山義夫先生（H25退職）、王志剛先生（現岐阜大学教授）にお世話になり、大学院修士課程では熊本水頼先生（H8退職）、湯海鵬先生（現愛知県立大学教授）、大学院博士後期課程では山本倫久先生（H13退職）、大島徹先生（現富山県立大学教授）、百生登先生（現富山高等専門学校准教授）に大変お世話になりました。また、博士の審査では宮代裕先生（H12退職）、植松哲太郎先生（H17退職）、横井信安先生（H12退職）にお世話になり、博士 第5号となることができました。大学を訪れ、ほとんどお変わりのない大島先生と話していると、忘れがちになりますが、指導して頂いた先生のほとんどが大学を去られ、私も大学を卒業して20年以上が経っていることに驚かされます。

私は大阪電気通信大学医療福祉工学科の機械工学の担当教員として、医用機械工学の講義とものづくりの実習を担当しております。本学科は臨床工学と福祉工学の2つが学べる学科であり、所定の単位を修得すると、国家資格である臨床工学技士の受験資格を得ることができます。臨床工学技士は糖尿病などの人工透析、手術中の人工心肺装置の操作などをおこなう医療職です。その学科の中で私は機械工学の基礎と材料力学、流体力学、機械力学の基本を講義し、医用工学の立場から教鞭をとっております。担当科目が変わる度に、もっと大学でしっかり授業に取り組んでいたら…と後悔しておりますが、学生時の講義ノートは今でも重宝しております。また、ものづくりでは二足歩行ロボットの製作実習と制御実習を担当しており、私たちが考案・改良を重ねたオリジナルの二足歩行ロボットを用いた実習を通じて、ものづくりの一連の体験（設計、機械製図、機械加工、回路製作、組立、歩行制御）を3年次におこない、ものづくり経験の重要性を伝えています。これらの知識の基盤にも大学の機械システムの講義だけではなく、2年次の必修であった電気工学の基礎知識が非常に役立っていると感謝しております。

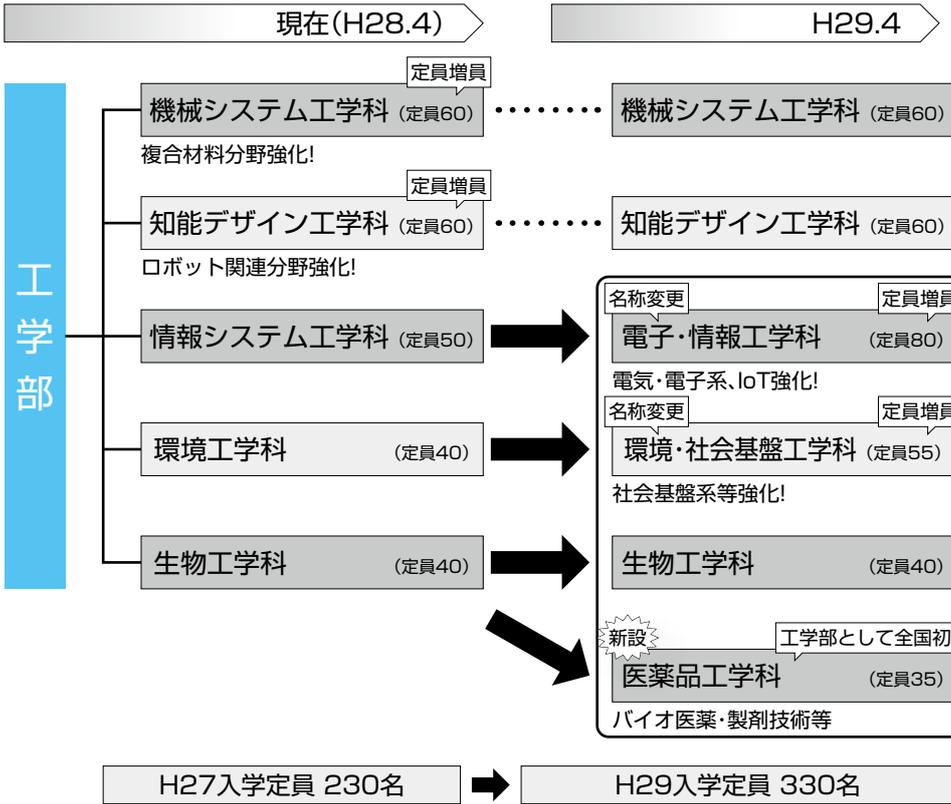
現在は国からの研究助成（科学研究費）も頂ける立場となり、一人の研究者として活動できるようになっております。これは富山県立大学で先駆的な研究に従事できた経験の結果であり、この実績も母校のおかげであることを忘れたことはありません。これからも卒業生として恥じない成果を積み上げていきたいと思っております。また、富山で学生生活を送れたおかげでウィンタースポーツが得意になり、今では研究室のゼミ旅行を白馬八方尾根スキー場でおこない、スノーボードの楽しさも教えています。



2015ゼミ旅行 八方尾根 Gondola山頂駅
（右から3番目が本人）

飛躍する富山県立大学 拡充計画

富山県立大学は、本学を志す若い皆さんやものづくりを支える産業界にとってますます魅力ある大学となるべく、大きく変わっていかうとしています。



- もっと魅力あるキャンパスへ
新校舎建設
- 講義室、研究室等増設
 - 新学生会館の整備
 - アクティブラーニングスペース
 - オープンラボ
 - 学生や県民の憩いと交流の場



研究紹介

脳と機械を繋ぐ技術

知能デザイン工学科 講師 森重健一

脳から機械へ、あるいは機械と脳の間で直接信号をやりとりするシステムのことをブレイン・マシン・インタフェース (BMI) と呼びます。狭い意味では、脳活動でロボットなどの機械を動かすシステムを指したり、義手や義足などを自分の手足のように自在に操作したり、頭の中で考えただけでスイッチや家電製品などを操作することを意味します。また、広い意味で捉えれば、脳の信号を機械に送って制御するだけではなく、機械の信号を脳に直接送り込み脳活動を操作する技術も意味しています。失われた脳の働きを刺激して補ったり、失われた感覚を機械からの信号で補う、などです。BMIは脳と機械が相互に作用し合うシステム全般を広く意味し、その実現には脳と機械を繋ぐ技術が不可欠です。

BMIは神経科学の発展に伴い登場し、脳活動の計測技術や解読技術といった脳と機械を繋ぐ技術の発展とともに広く研究されるようになりました。しかし現状では、SFなどで馴染みがあるような私たちが思い描くインタフェースの実現には程遠く、多くの技術的な問題がその実現を阻んでいます。

その一つの問題として、私の研究室ではノイズの問題に取り組んでいます。脳の活動に伴って、頭の中で微弱な電気信号が流れ、その信号は頭皮まで伝わり、頭皮表面で電気的な変化を引き起こします。その電気的な変化を計測したものを脳波と呼び、私たちが日々行っている運動や判断など様々な脳活動の情報が詰まっています。しかし、脳波に含まれる脳活動の信号は極めて小さく、様々なノイズに埋もれています。例えば、私たちがキョロキョロと目を動かしたり、首の筋肉を動かしたりするだけでも、大きな電気的なノイズが発生し、そのノイズの大きさは脳活動と比べて10~100倍程度もあります(図1)。それらの影響は大きいので、脳波を使ったBMIを実現するためには、何らかの方法で対処することが不可欠です。私の研究室では、脳活動を反映した信号をノイズから分離して、脳活動の信号だけを取り出す技術開発に取り組んでいます。

また、BMIを実現するためには、取り出した脳活動の信号を解読する必要があります。私の研究室では機械学習やパターン認識の手法を応用して、ユーザーが「何をしたいのか」という情報を解読することにも取り組んでいます。

将来、BMIが我々の日常生活に入り込んできて、日常環境下でも使えることが期待されています。その実現のためにはノイズの問題も含め、様々な技術的問題を解決する必要があります。これらの問題が一つずつ解決されることで、日常環境下で利用可能なBMIが実現され、SFのような世界が身近になるかもしれません。

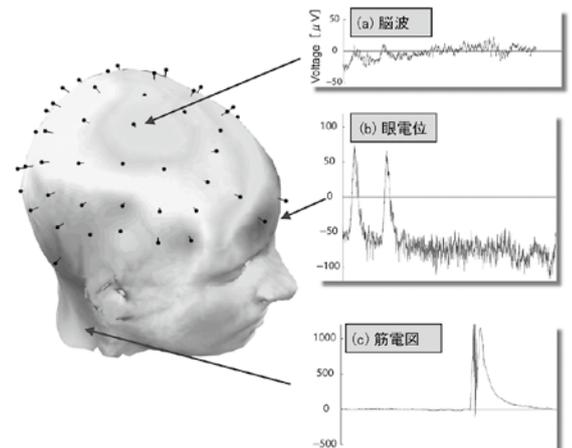


図1 脳波およびノイズの例

研究 紹介

「後ろ姿画像からも検出可能な、 目の画像を使用しない視線検出システム」

情報システム工学科

准教授 中田 崇行

後ろ姿画像とは、図1のような、顔が写っていない、もしくは不鮮明な画像を指しています。このような情報からも視線検出を行う技術を開発しています。

人間の視線を検出することは「ひとの関心のありか」を知る手がかりとなるため、コンピュータビジョン（コンピュータに人間のような画像認識機能を持たせる技術）の一大テーマとして、古くから存在しており、現在、一部は実用化しています。皆さんも科学番組でアイカメラ等の視線検出装置を見たことがあるかと思います。しかし、これらの装置は顔の近くにカメラを装着して詳細な眼球の画像を撮影する必要があります。このような機器を身につけると、いくら「自然に振る舞ってください」とお願いしても、気になって不自然な動きになるかもしれません。視線の動き検出は店の商品開発等のマーケティングに生かすことが考えられますが、このような機器を使用して測定した結果は本当に自然な購入者の視線の動きなのでしょうか？装着型はあきらめて、部屋にカメラを置いて、遠くから眼球の画像を狙いましょうか？いえいえ、これでは十分なきれいな目の画像が得られません。ましてや、カメラに背中を向けていたら？目の画像が得られなければ視線検出自体が不可能です！遠くから、目が写っていない画像で視線を検出することはできないのでしょうか？

もう一度図1を見てください。後ろ向きの画像ですが、私たちは彼らがどこを見ようとしているか何となくわかりませんか？頭の向きや肩の位置、腰のひねり等の姿を見て、人間は顔が見えなくてもある程度の視線方向の推定を行ってしまいます。本研究ではこれと似たようなことを行います。人間は自然な状態では、目や頭、および体の各部分の動きには関連性があります。視線に連動して首や肩、腰の関節を無理のない形で連動させるのです。本研究室では実験で被験者の関節等の角度を測定し、計算式を作成しました。この式に全身の関節の回転量や方向を入力すれば、視線方向がわかってしまいます！

図2は現在の実験結果を示しています。頭の向きだけではターゲットの方向と差がありますが、本研究で作成した計算式は、よりターゲットに近い位置を視線方向として推定していることがわかります。精度をもっと上げることが現在の目標です。各関節の回転角を知るために研究室では距離カメラと言われる特殊なカメラを使用していますが、もう少し研究が進めば、通常のカメラでも視線が測れるようになります。本研究はカメラから遠い人物に対しても計測可能なため、1. 町中の多人数のリアルタイム視線計測、2. 数百インチの大画面を見る人々の視線方向検出、3. 広告マーケティング、4. 大規模な人数の注意方向に注目した災害活動計画や都市計画など、従来のシステムが想定できなかった思いもよらない分野においての活用も期待できます。



図1 人物の後ろ姿(視線検出実験風景)

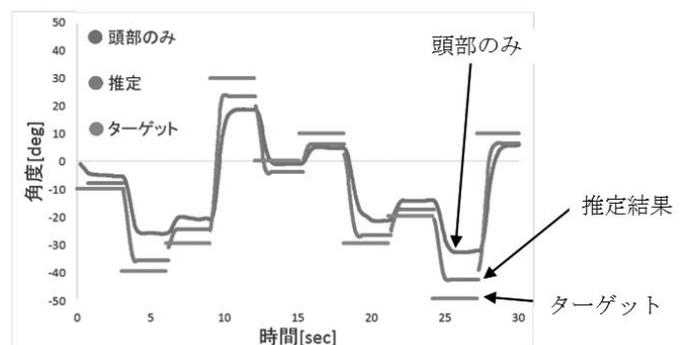


図2 実験グラフ(水平方向)

富山県立大学 第21回ダ・ヴィンチ祭を開催します！

今年は、県立総合衛生学院との特別コラボ企画「体験しよう 笑顔をつくる 工福看（こうふくかん）」をはじめとした、製作教室や科学実験、クイズ大会、ひまわり迷路など、多彩な催しを実施します。小さなお子様から高校生、保護者の皆様まで楽しんでいただけるイベントです。是非、お越しください！

●日時・場所 8月6日(土) 10:00~16:00 (富山県立大学)

- ①富山県立大学×富山県立総合衛生学院特別コラボ企画
「体験しよう 笑顔をつくる 工福看（こうふくかん）」 6企画
「命を助けるおしごと〜1日看護師になってみよう!〜」「君も救助隊！（タブレットで人を探そう）」など
- ②おもしろ科学縁日（屋外等での科学実験の実演） 7企画
「サイエンスカフェとやま」「ペットボトルで作る浮力のおもちゃ」など
- ③大学探検隊（学内のさまざまな研究室を探検） 15企画
「電気で金属を切る！ペンダントプレゼント」「超小型モビリティについて知ろう」、「立体テレビで遊ぼう!!」など
- ④こども科学製作教室 16企画（うち事前申込が必要なもの10企画）
「かんたん！ふわふわグライダー」「歯ブラシロボットを作ろう」「飛び出る写真を作ってみよう！」など
- ⑤その他 9企画
「ガチャガチャでウェブの仕組みを学ぼう」「建設業の新技术 発見！体験!」「ひまわり迷路で遊ぼう!」など
- ⑥小学生クイズ大会（10:00~、14:30~の2回開催）

●参加料 無料

●問合せ先 富山県立大学ダ・ヴィンチ祭実行委員会事務局
ホームページ <http://www.pu-toyama.ac.jp/davinci/>
TEL 0766-56-7500（内234） FAX 0766-56-6182
e-mail:davinci@pu-toyama.ac.jp

オープンキャンパス

県内外の高校生を対象に、本学への理解及び進学意欲を高めていただくことを目的に、下記のとおりオープンキャンパスを開催します。

●日時：8月6日(土) 9:00~ ●会場：富山県立大学

高校生向けコース

※カッコ内は生物 医薬品コースの日程

9:00~ 9:10(9:20~ 9:30)	開講挨拶、日程説明
9:10~ 9:25(9:30~ 9:50)	工学部紹介
9:25~10:05(9:50~10:10)	学科紹介
10:05~10:15(10:10~10:20)	入学者選抜の概要説明
10:30~11:05(10:25~11:05)	模擬講義
11:15~12:05	研究室等を見学
12:05~	個別相談コーナー

教員・保護者向けコース

9:35~ 9:45	開講挨拶、日程説明
9:45~10:25	学内施設見学
10:25~11:15	工学部紹介、 学生支援・キャリア教育等紹介
11:15~11:25	入学者選抜の概要説明
11:35~12:05	学生発表
12:05~	個別相談コーナー

●問合せ先：事務局教務課学生募集係 〒939-0398 富山県射水市黒河5180
TEL：0766-56-7500（内228） FAX：0766-56-6182

保護者向けキャリア支援（就職・進学）セミナー

本学では、就職活動や進学を控える学生の保護者の皆様を対象に、最新の就職状況や就職活動のポイント、学生への家庭での具体的な支援方法等をご紹介するため、次のとおり、キャリア支援セミナーを開催します。学生本人の同伴も可能です。多数のご参加をお待ちしております。

名古屋会場 ●開催日：平成28年8月27日(土) 14:00~16:00
●会場：桑山ビル 大会議室8A（愛知県名古屋市中村区名駅2丁目45番19号）
名古屋駅より徒歩3分の会場になります。

射水会場 ●開催日：平成28年8月28日(日) 14:00~16:00
●会場：本学 大講義室

※詳細は下記までお問合せください。

事務局教務課教務学生係 〒939-0398 射水市黒河5180
TEL：0766-56-7500（内231） FAX：0766-56-6182

SCHEDULE 平成28年度

		大 学 院	工 学 部
6 (土)ダ・ヴィンチ祭 18(木)～9/10(土)米国ポートランド 州立大学語学研修へ参加学生の派遣 若手エンジニアステップアップセミナー 31(水)～11/9 (水)機械系コース	8月	3(水)～12(金)授業又は前期試験	6(土)オープンキャンパス
		23(火)、24(水)工学研究科入学者選抜	22(月)～9/9 (金)集中講義
8/30(火)～17(土)中国・瀋陽化工大学へ 交換留学生の派遣 若手エンジニアステップアップセミナー 7(水)～11/2 (水)電子情報系コース 21(水)～11/9 (水)生物工学系コース	9月		18(日)保護者向け大学見学会
10月中旬～11月下旬 北陸三県大学学生交歓芸術祭 29(土)～30(日)大学祭 若手エンジニアステップアップセミナー 5(水)～11/16(水)環境工学系コース	10月	3(月)後期授業開始	
秋季公開講座 環境講演会	11月	10(水)第2回進路ガイダンス	
		17(水)第3回進路ガイダンス	25(金)推薦入試

CAMPUS NOTE

自動二輪部



こんにちは、自動二輪部です。自動二輪部って？と思う人もいるかもしれませんが、簡単に言えばバイク好きが集まっている同好会です。バイクと言えば、夏は暑く冬は寒い、人も荷物も乗らない、お金がかかる、そして危ない…などなど、メリッットの少ないものだと思っている人、多くないですか？実はその通りです(笑)。季節に関係なく長袖長ズボンで乗るのが基本ですし、クーラーやヒーターもなければ雨をしのぐ屋根もありません。せっかくセットした髪型もヘルメットでべっちゃんこ。そのくせ免許代や車両代は安いものではない。

世の中にはやってみないと分からない面白さが数多くあると思いますが、私が初めて身をもってそのことを感じたのがバイクでした。バイクに乗れば普段の何気ない道が一変し、単なる通学路が最高の景色へと変わりました。春には満開の桜並木を、夏には突然の夕立を、秋には虫の囁きを、冬には凍てつく木枯らしを…すべてを目で見て、匂いを感じ、肌で触れたことで初めてバイクの面白さを知りました。

現代ではわざわざバイクなんて乗らなくても娯楽は山のようにありますが、そんな時だからこそ少し新しいことに挑戦してみませんか？未知の喜びを感じてみませんか？少し冒険してみませんか？バイクと共に。

(部長 機械システム工学科4年 坪内大輝)



この用紙は資源保護のため、インキは植物油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。

編集後記

今年も5月の連休を利用してさつま芋の苗を実家の畑に植えた。今年は例年の安納芋と違って、「紅はるか」という品種を20株植えた。なぜ、品種を変えたか、それは、ちょっとした体験からである。実家のすぐ近くに神子原(みこはら)という山村が国道沿いにある。そこには地産地消のお休み処があり、地元産のそばを使ったおいしい手打ちそば屋さんや、地元産の農産物の直売所があり活況を呈している。ローマ法王に献上して全国的に一躍有名になった神子原米の原産地であり、高値で販売している。御存じの方も多いのではと思う。この神子原米ブランドのプランを考えたのは一人の市職員の方で、まさに今流行りの地域創生の元祖といったところである。この方、現在、全国各地の地域創生のアドバイザーとして御活躍である。話は戻るが、このお休み処には、石焼き芋も1本380円の高値で販売している。試食をさせてくれるので、さっそく興味津々、味わってみた。しっとりとした奥深い味わい感があり実に感心した。以来、その味の虜になり、毎度立ち寄って高値の石焼き芋を買った。試しに自分にも出来ないものかと、直売所の方に作り方のノウハウを尋ねた。企業秘密かと思いきや簡単に教えてくれた。電子レンジのオープン機能を使い、180度で約40～50分に設定するだけでよいとのこと。芋の品種は何と尋ねると「紅はるか」との返事。実験好きの小生としては、試さないはずが無い。さっそく、「紅はるか」、「安納芋」、「紅あずま」など各種の品種を買って、何度も試してみた。「安納芋」が一番かと思いきや、「紅はるか」が一番しっとりとした奥深い味わい。かくして、今年「紅はるか」に変更した次第である。

常日頃、体を動かしていなかったせいで、昨年は、草刈り機での草刈り、小型耕運機で耕して畝づくり、そして苗の植えつけの翌日、ぎっくり腰のおまけがついた。それ以来、毎朝、行動開始前にラジオ体操第一を行っており、おまけなしで健在である。

地域の高齢化が進み、いなかの里山に住むのは老人が多くを占めるようになり、里山も荒れ放題である。近年、政府も地域創生と銘打って本腰を入れ始めている。若者の地域定着を図るには、地域、そして地域産業の魅力を若者に大いにアピールしていくことが必要であろう。北陸、特に富山には世界や国内市場でトップクラスのシェアを誇るモノづくり企業が密集している。本学では次年度、大幅な学科拡充や新学科の創設を行い、地域産業を担う人材の育成により一層力を入れていく。

(学生部長 中村 清実)